

NPOのあり方を考える

NPOとは、Nonprofit Organizationといわれており、民間の非営利組織、非営利団体ととらえることができます。しかし、ここでいう非営利とは、対価を取らず、無償であるという意味ではありません。NPOとは「社会的使命=ミッション」を営利よりも優先させて活動する組織であり、政府でも企業でもない、第三の、新しいセクターの担い手として存在するものです。

1998年12月にNPO法（特定非営利活動促進法）が施行され、同法に基づくNPO認証法人は、道内で200を超え、全国でも6000ほどの法人数となっています。これらの団体の活動分野は、福祉、環境、文化、国際協力、まちづくり、スポーツ、子供の健全育成など幅広く、政府財政が厳しいなかで、NPO法人に寄せられる期待は大きくなっています。

わが国における望ましいNPOのあり方とは、どんな形なのでしょうか。その糸口を探るとともに、NPOと地域について考えていきます。

Contents 目次



Interview : インタビュー

市民活動の系譜とNPOの役割01

特定非営利活動法人 日本NPOセンター常務理事 山岡義典氏

Data Box : データボックス

北海道のNPO法人09

Case Study : 地域事例

舞台創りから、まちづくりへ11

～ふらの演劇工房～

Case Study : 地域事例

NPOが担う、ナショナルトラスト16

～霧多布湿原トラスト～

Report : レポート

ボランティアとNPOの両輪で、介護福祉の充実を20

～たんぼの会とわたぼうしの家～

Report : レポート

市民の資金を運用し、エネルギー政策の未来を拓く25

～北海道グリーンファンド～

Report : レポート

北海道の近代化遺産を守り、活用する29

～ひがし大雪アーチ橋友の会～